

# Museum Info 2022

ミュージアム・インフォメーション

春  
spring

2022年度の山梨県立美術館・文学館・博物館・考古博物館の展覧会の予定をご案内します。

※展覧会の名称は変更となる可能性があります。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、予定を変更する可能性があります。最新の情報につきましては、各館HPをご参照ください。



博物館

## 企画展

### 伝えるー災害の記憶 あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料

2022年3月11日(金)～5月9日(月)

「あいおいニッセイ同和損保災害資料」は、同社創設者のひとりである廣瀬鏡太郎氏が収集した資料群です。江戸時代から大正時代に全国各地で発生した様々な災害(地震、台風、噴火、伝染病など)に関わる内容は、日本で最も大規模かつ重要な災害関係資料群のひとつと評価されています。東日本大震災から約10年、さらに新型コロナウイルス感染症という新たな災いと向き合う最中にある今、「災害に向き合ってきた日本人」について改めて考える展覧会です。

□観覧料/一般500円(400円)、大学生250円(200円) ( )内は団体料金



右:「あら嬉し大安日にゆり直す」(あいおいニッセイ同和損保保険蔵)  
左:「焼死大法会図」(あいおいニッセイ同和損保保険蔵)



考古博物館

## 企画展 心を描く縄文人ー人面・土偶装飾付土器の世界ー

2022年4月16日(土)～6月12日(日)

山梨の縄文土器には多彩な文様表現が見られ、中でも人の顔を表した「人面装飾」は異彩を放っています。人面装飾は土器の口縁部や胴部などさまざまな部分を飾り、表現の細さにも違いが見られます。本展では、土器の形状や使い方によって表情を変える人面装飾を通して、縄文時代に生きた人々の豊かな精神世界に迫ります。

□観覧料/無料



右:山梨県指定文化財 人面装飾付土器と石棒【海道前C遺跡】  
左:重要文化財 人面装飾付土器【酒香場遺跡】 縄文時代中期



美術館

## フランソワ・ポンポン展

2022年4月16日(土)～6月12日(日)

フランスの彫刻家フランソワ・ポンポン(1855～1933)の日本で初めての回顧展です。ポンポンは20世紀初頭に動物彫刻家として歩み始め、《シロクマ》に代表される、単純でありながら優美な形状をもつ独創的な動物彫刻で世に認められました。その作品は現代でも親しみを感じられる普遍性を持っています。本展では動物彫刻の新たな表現を拓いたポンポンの魅力をご紹介します。

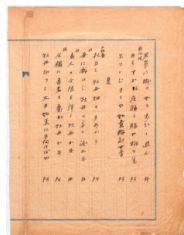
□観覧料/一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ( )内は団体料金



右:《シロクマ》1923-1933年 白色大理石 群馬県立館林美術館蔵  
左:《大黒豹》1930-1931年 ブロンズ 群馬県立館林美術館蔵



文学館



初展示の俳句の原稿



芥川龍之介

## 特設展 芥川龍之介展 生誕130年

2022年4月23日(土)～6月19日(日)

大正期の文学を代表し、機知に富んだ発想と多彩な形式、均整のとれた文体で数々の短編小説の名作を残した作家・芥川龍之介(1892～1927 東京生まれ)。生誕130年を記念して、日本有数の当館の芥川コレクションを中心に、芥川の魅力を紹介します。

□常設展観覧料でご覧いただけます。

一般330円(260円)、大学生220円(170円) ( )内は団体料金



博物館

## シンボル展

### 重要無形民俗文化財 <sup>てんずし</sup>天津司の舞 900年の想いととも

2022年5月28日(土)～6月27日(月)

甲府市小瀬に伝わる「天津司の舞」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。人形の頭は鎌倉時代の作とも言われ、舞とともに受け継がれてきました。本展は、天津司の舞の歴史や変容、継承の取組み等をご紹介します初めての機会です。社会変動や災害により伝承文化の危機が叫ばれる今日、天津司の舞の継承に向けられた不屈の精神に触れてみてはいかがでしょうか。

□常設展観覧料でご覧いただけます。

一般520円(420円)、大学生220円(170円) ( )内は団体料金



「御成道を行く天津司の舞の一行」内田宏撮影 昭和34年(1959)



## 企画展・ふじのくに文化財交流展 黒曜石の道 —オブシディアンロード—

2022年7月16日(土)～8月28日(日)

バイ・ふじのくに文化財交流事業の一環として、静岡県・長野県と合同で交流展を開催します。この交流展では、豊かな縄文文化が華開いた山梨と、日本最古のムラが発見された静岡との間で文化財を交換展示いたします。日本人類史の原点に迫る静岡の旧石器時代の貴重な文化財をぜひこの機会にご覧ください。

□観覧料 / 無料



左:日本最古の石器群【富士遺跡】 右:旧石器時代の陥穴(おとしあな)断面【東野遺跡】  
共に静岡県埋蔵文化財センター蔵



美術館

## 宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022展

2022年7月16日(土)～8月28日(日)

宮城県美術館は、絵本「こどものとも」(福音館書店)の原画を核として絵本原画を収集、現在、1万点以上を所蔵しています。本展ではその「こどものとも」で活躍した作家たちの絵本原画を、初公開を含め多数展示します。出品作家は太田大八、山本忠敬、中谷千代子、山脇百合子、なかのひろたか、佐藤忠良、林明子ら33作家、出品点数は約300点です。作家たちが心を込めて描いた絵本原画の芸術的な豊かさに触れることで、奥深い絵本の世界が満喫できる展覧会です。

□観覧料 / 一般1,000円(840円)、大学生500円(420円)  
( )内は団体料金



上:林明子「はじめてのおつかい」表紙・裏表紙原画 1976年 宮城県美術館蔵  
下:山脇百合子「ぐりとぐら」26-27頁原画 1963年 宮城県美術館蔵



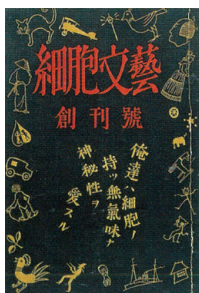
文学館

## 特設展 文芸雑誌からZINE(ジン)へ

2022年7月16日(土)～8月28日(日)

小・中学校時代の芥川龍之介が友人とともに手書きで作った回覧雑誌や、太宰治が学生時代に仲間と発行した「細胞文藝」など、作品発表の場となってきた文芸雑誌。一方、現代では若年層を中心にテーマや表現方法など自由に構成する雑誌「ZINE(ジン)」の創作が、世界各地に広がっています。近代文学を彩ってきた文芸雑誌や、進化を続ける「ZINE」の現状を紹介します。

□常設展観覧料でご覧いただけます。  
一般330円(260円)、大学生220円(170円) ( )内は団体料金



右:「細胞文藝」創刊号 1928(昭和3)年5月  
太宰が弘前高等学校時代に編集発行した同人誌。  
左:「小さな本-ZINE(ジン)作り教室」  
(当館で2021年11月13日に開催)で作成したZINE



博物館

## 企画展 南極展

2022年7月16日(土)～9月5日(月)

氷海と厳しい自然環境によって隔絶された南極は、人類が定住しない唯一の大陸であり、地球に残された最後の謎のひとつです。本展では、山梨県出身者(白瀬隊の村松進、新聞記者の矢田喜美雄)も関与したわが国の南極観測の歴史を紹介するとともに、南極の景観、動物に関する映像や資料から、その自然環境の厳しさや美しさを示し、さらに南極から得ることができる地球科学上の知見や地球環境のメッセージを紹介します。

□観覧料 / 一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ( )内は団体料金



右:「到達した地点を「大和雪原」と名付け国旗を掲揚する白瀬南極探検隊」  
(山梨県立博物館蔵)  
左:「南極観測隊絵がき(宗谷)」(個人蔵)

## 山梨近代人物館 第15回展示「山梨を舞台に活躍したひとびと」

## 第16回展示「わたしたちのまちの先駆者たち- 峡東地区 -」

山梨県庁舎別館にオープンした「山梨近代人物館」は、年に2回のテーマ展示を開催しております。2022年4月から同年9月末まで第15回展示「山梨を舞台に活躍したひとびと」を、2022年10月から2023年3月末まで、第16回展示「わたしたちのまちの先駆者たち- 峡東地区 -」を開催します。

貴重な文化財であり、また、時代を超える記憶が刻まれた県庁舎別館で、山梨県の発展を支えてきた幾多の先人たちからのメッセージを今、改めて紹介します。

山梨近代人物館 | 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 県庁舎別館2階 TEL 055-231-0988  
開館時間 / 午前9時～午後5時 休館日 / 毎月第2・第4火曜日、12月29日～1月3日 入館料 / 無料



# Museum Info 2022

ミュージアム・インフォメーション

秋  
autumn



美術館

## 縄文 —JOMON—展

2022年9月10日(土)～11月6日(日)

山梨県は、全国有数の縄文文化が発展した地域として知られ、遺跡からは、数多くの土器や土偶が発掘されています。それらは、大変優れた造形美で作られています。美術的視点から紹介されることは決して多くありません。本展では、山梨県立考古博物館をはじめとする県内各所に所蔵されている代表的な土器や土偶を一堂に会し、写真家、小川忠博によって撮影された芸術的な拡大写真や展開写真とコラボレーションさせることで、縄文文化の美術的価値を改めて知る機会となります。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ( )内は団体料金



《渦巻文土器(笛吹市教育委員会蔵)展開写真》【撮影:小川忠博】



文学館



右:樋口一葉(1872～1896)  
左:樋口一葉「ゆく雲」未定稿 主人公・桂次が、東京から故郷の甲州・大藤村に向かう場面。

## 企画展 樋口一葉展 生誕150年

2022年9月17日(土)～11月23日(水・祝)

樋口一葉(1872～1896)は、逆境のなか職業作家としての道を切り開き、24年の短い生涯に「たけくらべ」「ごりえ」など、近代文学史に残る名作を残しました。両親が山梨県甲州市塩山出身で、甲州の親戚や知人との交流、山梨を舞台にした作品の執筆など、山梨と深い関わりがあります。本展では激動の時代を生きた一葉の生涯と作品の魅力に迫ります。

□観覧料／一般600円(480円)、大学生400円(320円) ( )内は団体料金



考古博物館

## 第39回特別展 甲斐の勇者 —その原像を探る—

2022年9月28日(水)～11月23日(水・祝)

「甲斐の勇者」は、奈良時代に成立した歴史書「日本書紀」に登場する謎の人物で、壬申の乱において甲斐から動員された騎兵であるといわれています。その実像は定かではありませんが、6～7世紀の甲府盆地に築かれた古墳群には、武器や武具、馬具といった勇壮なる騎馬の姿を彷彿とさせる副葬品が納められており、そうした人物像が生まれた背景を考古学的な視点からも垣間見ることができます。本展では、山梨と各地の古墳出土品を比較しながら、「甲斐の勇者」の原像を探るとともに、その歴史的背景について考えます。

□観覧料／一般600円(480円) ( )内は団体料金



右:山梨県指定文化財 平林2号墳副葬品 古墳時代終末期  
左:短甲【大塚古墳】・衝角付冑【王塚古墳】※複製品 古墳時代中期



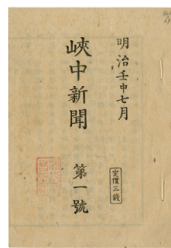
博物館

## 企画展 山梨の新聞150年の歩み

2022年10月15日(土)～12月5日(月)

明治5年(1872)に甲府の内藤伝右衛門が創刊した「峡中新聞」(現在の「山梨日日新聞」)は、今なお継続発行されている最古の地方新聞として知られています。山梨の政治・経済・文化・スポーツなどを報じ続けてきたこの地方新聞の150年の歩みをみることで、近現代の山梨の社会や、人々の暮らしの変化を知ることができます。峡中新聞創刊から150周年となるこの機会に、山梨に根付いた地方メディアの歩みを通して、県民の歴史を振り返り、明日を展望します。

□観覧料／一般500円(400円)、大学生250円(200円) ( )内は団体料金



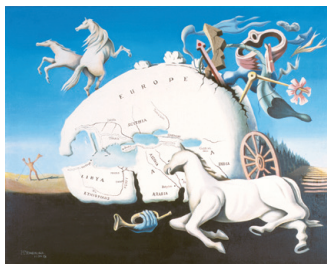
右:「峡中新聞第1号」(山梨県立博物館蔵)  
左:「内藤伝右衛門肖像」(山梨県立博物館蔵)



美術館

## よねくらひさひと 米倉壽仁展

2022年11月19日(土)～2023年1月22日(日)



米倉壽仁《ヨーロッパの危機》1936年  
山梨県立美術館蔵

甲府市出身の米倉壽仁(1905～1994)は、戦前からシュルレアリスムの流れをくむ様々な絵画表現に取り組んだ画家です。前衛画家が集った「美術文化協会」や、戦後に自身が結成した「サロン・ド・ジュワン」を基盤に活動し、日本のシュルレアリスム芸術史に足跡を残しました。約40年ぶりの個展となる本展では、当館所蔵の米倉作品を中心として、青年期より取り組んだ詩やエッセイ、また福沢一郎や北脇昇など交遊のあった画家たちや、ダリなど海外作家の作品もあわせて紹介し、激動の時代のなかで米倉がめざした表現を見直します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ( )内は団体料金





### 企画展 笛吹市の出土品Ⅲ

2022年12月10日(土)～2023年1月22日(日)

地域の文化財の魅力を紹介するシリーズ最新版。笛吹市シリーズの最終回となる今回は、古墳時代の終わりから奈良・平安時代にかけての遺跡や遺物にスポットを当て、甲府盆地の歴史における笛吹市の位置づけを考古資料から探ります。

墨書土器群【狐原遺跡】平安時代 □観覧料／無料



### シンボル展 山梨県指定文化財 木造源頼朝坐像

2023年1月21日(土)～2月20日(月)

甲府市の善光寺に伝わる源頼朝像は、頼朝の肖像彫刻としては最古のものと言われ、真の頼朝の姿を伝える可能性が最も高い像として、近年注目を集めています。本展では、令和2年度に解体修理が行われた頼朝像について、修理で得られた情報なども含めて紹介します。



「源頼朝坐像」(山梨県指定文化財 善光寺蔵)

□常設展観覧料でご覧いただけます。  
一般520円(420円)、大学生220円(170円) ( )内は団体料金



### 第20回わたしたちの研究室・研究成果展示会

2023年2月11日(土・祝)～3月5日(日)

小中学生のみなさんが、夏休みの自由研究や総合的な学習の時間に取り組んだ歴史・考古学に関する研究を展示公開します。



展示会の様子(最優秀賞作品)

□観覧料／無料



### 企画展 印章一刻まれてきた歴史と文化

2023年3月11日(土)～5月8日(月)

山梨県における印章業は、水晶印に篆刻を行ったことから始まったといわれ、現在では全国一の生産量を誇ります。また、全国的に有名であった高芙蓉をはじめ、数多くの篆刻家を輩出してきました。近年、デジタル化・オンライン化が進展する中で注目を集める印章ですが、こうした時代だからこそ、印章の役割や未来のあり方などについて歴史的、文化・芸術的な広い視点で改めて紹介し、考える機会とします。



右:「龍朱印」(山梨県立博物館蔵【武田家朱印状】より)  
左:「甲斐国印」(復元、山梨県立博物館蔵)

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ( )内は団体料金



※( ): 団体(20名以上) 料金

観覧料のご案内	観覧料		常設展	特別展・企画展	定期観覧券(年間パスポート) 購入した日から1年間、常設展・企画展(特別展)を何回でも観覧できます。
	一般	大学生			
美術館	一般	520(420)円	当パンフレットに記載されている各展覧会情報をご覧ください。	3,140円	
	大学生	220(170)円		1,570円	
文学館	一般	330(260)円		1,570円	
	大学生	220(170)円		790円	
博物館	一般	520(420)円		2,100円	
	大学生	220(170)円		1,050円	
考古博物館	一般・大学生	220(170)円	1,360円		

ミュージアム甲斐in券 (4館共通定期観覧券)	
購入した日から1年間、美術館、文学館、博物館、考古博物館の全ての常設展・企画展(特別展)を何回でも観覧できます。	
一般	5,240円
大学生	2,620円

県内の65歳以上の方(県外65歳以上の方は常設展料金のみ)、障がい者および介護者ならびに、小・中・高校生等は、**無料**です。また、県民の日(11月20日)は、**どなたでも無料**です。

**山梨県立美術館**  
〒400-0065 甲府市真川1-4-27  
TEL 055-228-3322  
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)  
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)

**山梨県立文学館**  
〒400-0065 甲府市真川1-5-35  
TEL 055-235-8080  
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)  
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)

**山梨県立博物館**  
〒406-0801 笛吹市御坂町成田1501-1  
TEL 055-261-2631  
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)  
休館日/火曜日(祝日の場合はその翌日)

**山梨県立考古博物館**  
〒400-1508 甲府市下曾根町923  
TEL 055-266-3881  
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)  
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)

